

高 櫓 A 遺 跡

TAKAYAGURA - A SITE

— 「パークスクエア都南中央」 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 —

2009. 11

宮城開発株式会社
盛岡市教育委員会

例 言

- 1 本書は、岩手県盛岡市永井第24地帯に所在する高塚A遺跡において、宮城開発株式会社が行った「パークスクエア都南中央」宅地造成事業に伴い平成16・18・21年度に実施した発掘調査の報告書である。
- 2 本調査は、宮城開発株式会社と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、遺跡の学び館が野外調査及び出土資料整理・報告書編集を行った。また、本調査に係る費用は、事業主体である宮城開発株式会社より支出された。
- 3 本書の編集は盛岡市遺跡の学び館が行い、執筆作業を佐々木亮二・津嶋知弘が担当した。
- 4 土器・土製品の実測図化の一部は、タックエンジニアリング株式会社が行った。
- 5 遺構平面位置は、世界測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。
 - ・調査座標軸は、世界測地系第X系に準じる
 - ・調査座標原点 $X = -39,000,000$ $Y = 28,000,000 \rightarrow RX = 0$ $RY = 0$
- 6 高さは、標高値をそのまま使用した。
- 7 土層断面図は堆積のしかたを重視し、層の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。層名の記号は次のとおりとした。

記号	
遺構地階上	A～I層
竪穴住居カマド崩壊上	J層
竪穴住居カマド構築土	K層
床構築上	L層
地形形成堆積上(遺物包含層含む)	I (70～マ数字)～層

- 8 遺構記号は次のとおりとした。

記号			
竪穴住居跡	RA	溝跡	RG
建物跡	RB	配石・集石遺構	RII
柱列跡	RC	井戸跡	RI
土坑	RD	土器埋設	RP
竪穴建物跡	RE	古墳・円形周溝ほか	RX
焼土遺構	RF	土坑墓ほか	RZ

- 9 遺構平面図の線種は次のとおりとした。

検出	実線	———
推定	破線	- - - - -
時期差	一点鎖点	- · - · - ·

- 10 古代の竪穴住居跡のカマド方向は、カマド本体中心(焚き口)から煙道先端(煙出し)を結んだ線の方向の傾きとした。
- 11 古代の土器区分は、土師器・あかやき土器・須恵器に分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化焼成土器(坏類、甕類、鉢)に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は土師器に分類した。
- 12 発掘調査に伴う出土遺物及び発掘記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。
- 13 当該調査の一部については、「盛岡市遺跡の学び館平成16年度発掘」、「盛岡市遺跡の学び館平成18年度発掘」等により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

目次

第1章 経過と遺跡の環境	
1. 遺跡の環境	1
2. 調査の経過	1
3. 調査体制	2
第2章 第2次・3次・5次調査成果	
1. 遺構と遺物	3
第3章 調査成果のまとめ	
1. 竪穴住居跡	13
2. 出土石器	13
3. 土製品	14
4. 鉄製品	14
5. 刻書土器	14

挿図

表

写真図版

抄録

挿図目次

第1図 遺跡位置図	16	第11図 RA006竪穴住居跡	23
第2図 高槽A遺跡全体図	16	第12図 RA007竪穴住居跡	23
第3図 高槽A遺跡発掘調査全体図	17	第13図 RA008竪穴住居跡	24
第4図 第2次調査区全体図	18	第14図 RA009竪穴住居跡	24
第5図 第3次・5次調査区全体図	19	第15図 RA010竪穴住居跡	25
第6図 RA001竪穴住居跡	20	第16図 RA011竪穴住居跡	25
第7図 RA002竪穴住居跡	20	第17図 RA012竪穴住居跡	26
第8図 RA003竪穴住居跡	21	第18図 RA013竪穴住居跡	26
第9図 RA004竪穴住居跡	21	第19図 RA014竪穴住居跡	27
第10図 RA005竪穴住居跡	22	第20図 RA015竪穴住居跡	27

第21图	RA016竖穴住居跡	28
第22图	RA017竖穴住居跡	28
第23图	RA018竖穴住居跡	29
第24图	RA019竖穴住居跡	29
第25图	RA020竖穴住居跡	30
第26图	RA021竖穴住居跡	30
第27图	RA022竖穴住居跡	31
第28图	RA023竖穴住居跡	31
第29图	RA024竖穴住居跡	32
第30图	RA025竖穴住居跡	32
第31图	RA026竖穴住居跡	33
第32图	RA027竖穴住居跡	33
第33图	RA028竖穴住居跡	34

第34图	RA029竖穴住居跡	34
第35图	RA030竖穴住居跡	35
第36图	RA031竖穴住居跡	35
第37图	RA032竖穴住居跡	36
第38图	RA033竖穴住居跡	36
第39图	RA034竖穴住居跡	36
第40图	出上土器(1)	37
第41图	出土土器(2)	38
第42图	出土土器(3)	39
第43图	出土土器(4)	40
第44图	出土土器(5)	41
第45图	出土土器(6)	42
第46图	出土土製品・石製品・鉄製品	43

表目次

第1表	出土土器観察表(1)	46
第2表	出土土器観察表(2)	47

第3表	出土遺物観察表	48
第4表	竖穴住居跡検討表	48

写真図版目次

第1図版	発掘調査区全景	50
第2図版	竖穴住居跡(1)	51
第3図版	竖穴住居跡(2)	52
第4図版	竖穴住居跡(3)	53
第5図版	竖穴住居跡(4)	54

第6図版	出土遺物(1)	55
第7図版	出土遺物(2)	56
第8図版	出土遺物(3)	57
第9図版	出土遺物(4)	58
第10図版	出土遺物(5)	59

第1章 経過と遺跡の環境

1. 遺跡の環境

高槽A遺跡は、JR東北本線岩手飯岡駅の東方約800mの場所に位置する（第1図）。遺跡の範囲は、東西約200m、南北約100mをはかる。遺跡の大部分は水田や畑地として利用されていたが、南北と東側は宅地化され、西側にも盛岡市都南中央公園の野球グラウンドが隣接する（第2図）。

遺跡は、平石川と北上川の流路の転換によって形成された河岸段丘上に立地する。この周囲には、北東の二本柳地区に百目木遺跡・西鹿波遺跡、北西の羽場地区に人高遺跡・本松遺跡、南東の見前地区に上畑遺跡などがあり、発掘調査で奈良・平安時代の集落跡が確認されている。

2. 調査の経過

当該地については、平成15年度に宮城開発株式会社を仲介として地権者より宅地造成事業に係る埋蔵文化財調査の協議があり、盛岡市教育委員会事務局文化課（当時）が試掘確認調査（第1次調査）を行ったところ、古代の遺構・遺物が確認され、高槽A遺跡が集落跡であることが明確となった。この結果を受け、平成16年度に本調査実施に係る費用負担について、用地を取得した宮城開発株式会社と協議を行い、遺跡の学び館が第2次調査（本調査）を実施した。本調査期間中に調査現地説明会を実施し、地域の方々を中心に約130人の来客があった。

平成17年度になり、第2次調査区の南隣接地で同社による宅地造成事業が再度計画され、本調査実施に係る費用負担について協議を行い、遺跡の学び館が第3次調査（本調査）を実施した。本調査期間中に、平成16年度に続き調査現地説明会を実施し、地域の方々に調査成果の紹介を行った。

平成20年度には、第3次調査区の南隣接地で宮城開発株式会社を仲介して地権者より宅地造成事業に係る埋蔵文化財調査の協議があり、平成21年度に盛岡市教育委員会事務局歴史文化課が試掘確認調査（第4次調査）を行ったところ、第3次調査区から続く古代の遺構・遺物が確認された。この結果を受け、本調査実施に係る費用負担について、用地を取得した宮城開発株式会社と協議を行い、遺跡の学び館が第5次調査（本調査）を実施し、出土資料・調査図面の整理、発掘調査報告書の編集を行った。

遺跡名	地号	次数	事業	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	調査費
高槽A	ITA	1	H15	試掘確認	水井24地割27-2地	952 (対象7,657)	2003.11.18	古代遺構・遺物多数	宅地造成	市教委 (文化課)	本費
		2	H16	本調査	水井24地割27-3地	5,530	2004.7.5～ 2004.10.7	古代第3次調査区19棟(1棟は3次調査区に属し)、古形築地家屋、古代以降土器多数・遺物15点	宅地造成	市教委 (遺跡の学び館)	H16助成 本費
		3	H18	本調査	水井24地割29-1地	3,723	2006.6.1～ 2006.8.11	古代第2次調査区11棟(1棟は5次調査区から、2棟は5次調査区に属し)、第4次調査区1基・土器多数、近世以降瓦葺立派列石・墓穴次遺構2基	宅地造成	市教委 (遺跡の学び館)	H18助成 本費
		4	H21	試掘確認	水井24地割34-2地	288 (対象1,425)	2009.4.6	古代遺構・遺物	宅地造成	市教委 (歴史文化課)	本費
		5	H21	本調査	水井24地割34-2地	1,400	2009.6.29～ 2009.7.15	古代第4次調査区9棟(2棟は5次調査区に属し)、土器多数・遺物15点・出土資料1点	宅地造成	市教委 (遺跡の学び館)	本費

高槽A遺跡発掘調査一覽表〔平成15～21年度〕

3. 調査体制

- 【委託者】 宮城開発株式会社
 【調査主体】 盛岡市教育委員会
 【事務局】 盛岡市教育委員会事務局文化課（～平成18年度）、歴史文化課（平成19年度～）
 【調査】 盛岡市遺跡の学び館
 【助言】 文化庁、岩手県教育委員会、財団法人岩手県文化振興事業団歴史文化財センター
 【協力】 発掘調査、資料整理、報告書編集にあたり、宮城開発株式会社には調査費用負担のほか多大な協力を得た。また、作業に従事した多くの発掘補助員、並びに県内文化財関係職員の方々より協力和御教示をいただいた。
- 【発掘調査担当者】 第2次調査（平成16年度） 三浦陽一・今野公顕
 第3次調査（平成18年度） 室野秀文・菊地幸裕・松川光海
 第5次調査（平成21年度） 佐々木亮二

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員（平成21年度）

教育長 八巻恒雄 教育部長 菊地 誠 教育次長 佐藤義見

歴史文化課（事務局）

課長	武藤英富
課長補佐(文化財・史跡担当)	袖上 寛
課長補佐(埋蔵文化財担当,兼務)	千田和文
主査(兼務)	杉浦雄治
文化財主査	室野秀文
文化財主査(兼務)	菊地幸裕
文化財主査(兼務)	津嶋知弘
文化財主任(兼務)	神原謙一郎
主任	岡 聡
文化財主任	樺頭祐子
文化財主任	今野公顕
文化財主任	花井止香
文化財主任(兼務)	佐々木亮二
主事	小野寺幸子
主事補(兼務)	明地幹子
文化財調査員	高橋 史
文化財調査員	小西治子
文化財調査員	渡邊久美子

遺跡の学び館（施設）

館長(兼務)	武藤英富
館長補佐	千田和文
主査	杉浦雄治
文化財主査	菊地幸裕
文化財主査	津嶋知弘
文化財主任	神原謙一郎
文化財主任	佐々木亮二
主事補	明地幹子
文化財調査員	吉田里和
文化財調査員	鈴木賢治
文化財調査員	佐々木紀子
学芸調査員	相馬容子
学芸調査員	佐々木逸人

第2章 第2次・3次・5次調査成果

1. 遺構と遺物

平成16・18・21年度に本調査として実施した、第2次・3次・5次調査については、それぞれの調査区が隣接し、かつ複数の調査区にかかる遺構が存在することから、一連の調査として遺構・遺物の記述を行う。当該調査区は、遺跡の東半部を占め、総本調査面積は10,633㎡である。重機により表土を除去し、遺構踏査を行った。調査の結果、古代の竪穴住居跡34棟（RA001～034）・円形周溝2基（RX001・002）、古代以降の竪穴状遺構6基（RE001～006）・土坑2基（RD001～022）・溝跡4条（RG001～004）・焼土遺構1基（RF001）、近世以降の掘立柱列群（RC001）を検出した（第3・4・5図）。また、各遺構より古代の土器（土師器・須恵器）、土製品（勾玉・丸玉・紡錘車・ミニチュア土器・フイゴ羽口）、石製品（砥石）、鉄製品（鉄鏃・釣針）等が出土した。以下、紙面の都合により、主に竪穴住居跡及びその出土遺物についてのみ記述し、掘土詳細については特徴的なものを除き省略する。

・竪穴住居跡

RA001（第6図）

位置 2次調査区南西部 重複関係 なし 平面形 兩九方形
規模 南北4.36m、東西4.20m、深さ0.21m カマド方向 N5°W、北カマド、長い煙道（1.25m）
床の状況 カマド部分に突き口の焼け面あり
出土遺物（第40・46図、第1・3表） 土師器環（非ロクロ）・甕・球胴甕・甔、土製品（紡錘車1点）
時期 8世紀末～9世紀初頭

RA002（第7図）

位置 2次調査区西部 重複関係 なし 平面形 兩九方形
規模 北西～南東4.66m、北東～南西1.88m、深さ0.36～0.57m
カマド方向 N36°W、北西カマド、長い煙道（1.28m） カマド 両袖残存
床の状況 カマド部分に突き口の焼け面、周溝、床構築土あり 柱穴 ビット1口
出土遺物（第41・46図、第1・3表） 土師器環（非ロクロ）・甕・球胴甕、土製品（紡錘車1点）
時期 8世紀末～9世紀初頭

RA003（第8図）

位置 2次調査区北西部 重複関係 なし 平面形 兩九方形
規模 北西～南東4.46m、北東～南西1.55m、深さ0.14m
カマド方向 N20°W、北西カマド、長い煙道（トンネル状、1.0m） カマド 右袖残存
床の状況 カマド部分に突き口の焼け面、周溝、床構築土あり 南東部に粘土塊 柱穴 ビット1口

出土遺物 (第40・46図, 第1・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球胴甕, 土製品 (紡錘車1点)

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA004 (第9図)

位置 2次調査区西部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東4.83m, 北東-南西5.20m, 深さ0.32～0.45m

カマド方向 N42°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.04m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり 柱穴 ビット3口

出土遺物 (第41図, 第1表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・鉢・瓶, 土製品 (ミニチュア土器2点), 軽石

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA005 (第10図)

位置 2次調査区南西部・3次調査区北西部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東5.05m, 北東-南西5.55m, 深さ0.2～0.25m

カマド方向 N28°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.10m) カマド 両袖残存 (芯材に土器使用)

埋土 床面付近に多量の炭化材 貯蔵穴 カマド右袖部に1基 (pit5)

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり 東部・西部に地焼⁶⁾の焼け面

柱穴 主柱穴4口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.3m	0.3～0.35m	0.25～0.3m	0.42m
深さ	0.5m	0.45m	(0.25m)	0.48m
平面形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整円形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第41図, 第1表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球胴甕, 刻書土器「キ」, 石製品 (砥石1点)

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA006 (第11図)

位置 2次調査区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東5.67m, 北東-南西5.91m, 深さ0.12～0.3m

カマド方向 N22°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.25m) カマド 左袖残存

埋土 床面付近に炭化材 床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

柱穴 主柱穴3口

	pit1	pit2	pit3
直径	0.2～0.22m	0.2m	0.3m
深さ	0.45m	0.32m	0.4m
平面形	不整円形	不整円形	不整円形
特徴	—	—	柱痕跡あり

出土遺物 土師器坏〔非ロクロ〕・甕

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA007 (第12図)

位置 2次調査区西部 重複関係 RD008 (住居埋上途中から掘り込み) 平面形 隅丸方形

規模 南北4.01m, 東西4.17m, 深さ0.17～0.31m

カマド方向 N3°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.25m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり 柱穴 ビット2口

出土遺物 (第42図, 第1表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球刷壺

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA008 (第13図)

位置 2次調査区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 南北4.39m, 東西5.07m, 深さ0.16～0.29m

カマド方向 N12°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.46m) カマド 両袖残存

埋土 床面付近に炭化材 床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

貯蔵穴 南西部に1基 (pit5) 柱穴 ビット4口

出土遺物 (第42・46図, 第1・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・高台付坏〔非ロクロ〕・甕・球刷壺・鉢・土製品 (紡錘車4点, 勾玉4点, 丸玉4点), 軽石, 鉄製品 (鉄鏝1点)

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA009 (第14図)

位置 2次調査区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 南北4.66m, 東西4.75m, 深さ0.15～0.26m

カマド方向 N18°W, 北カマド, 長い煙道 (1.28m) カマド 両袖残存 埋土 床面付近に炭化材

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり 柱穴 ビット7口

出土遺物 (第42・46図, 第1・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・高台付坏〔非ロクロ〕・甕・球刷壺, 土製品 (紡錘車1点), 軽石

時期 8世紀末～9世紀初頭

RA010 (第15図)

位置 2次調査区中央部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 南北4.16m, 東西4.41m, 深さ0.27～0.35m

カマド方向 N12°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.17m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり 柱穴 ビット5口

出土遺物 (第42・46図, 第1・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球刷壺, 土製品 (紡錘車3点)

時期 8世紀末～9世紀初頭

RAO11 (第16図)

位置 2次調査区東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形 (床面のみ残存)

規模 北西-南東4.26m, 北東-南西3.54m

カマド方向 N32°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.12m)

床の状態 カマド部分に焼き口の焼け面 貯蔵穴 東部に1基 (pit1)

出土遺物 土師器甕・球胴甕

時期 8世紀末～9世紀初頭

RAO12 (第17図)

位置 2次調査区東部 重複関係 RD003 (新) 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東5.83m, 北東-南西6.56m, 深さ0.24m

カマド方向 N27°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.45m) カマド 両袖残存

埋土 床面付近に炭化材 貯蔵穴 カマド右袖脇に1基 (pit12)

床の状態 カマド部分に焼き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

柱穴 主柱穴4口, その他ピット7口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.22m	0.22～0.3m	0.3～0.35m	0.25m
深さ	0.42m	0.4m	0.4m	0.42m
平面形	不整円形	不整楕円形	不整円形	不整円形
特徴	柱痕跡あり	—	—	柱痕跡あり

出土遺物 (第42・46図, 第1・3表) 土師器坏 [非ロクロ]・高台付坏 [非ロクロ]・甕・球胴甕・瓶, あかやき土器坏 [ロクロ] 破片1点 (A層), 土製品 (ミニチュア土器1点)

時期 8世紀末～9世紀初頭

RAO13 (第18図)

位置 2次調査区東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東2.91m, 北東-南西3.07m, 深さ0.22～0.36m カマド方向 S23°E, 南東カマド, 長い煙道 (1.19m) カマド 両袖残存 床の状態 カマド部分に焼き口の焼け面

貯蔵穴 カマド右袖脇に1基 (pit1) 出土遺物 土師器坏 [非ロクロ]・甕

時期 8世紀末～9世紀初頭

RAO14 (第19図)

位置 2次調査区東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東3.48m, 北東-南西3.50m, 深さ0.24～0.4m

カマド方向 N30°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.16m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焼き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり 貯蔵穴 カマド右袖脇に1基 (pit1)

柱穴 ビット2口 出土遺物 土師器坏 [非ロクロ]・甕

時期 8世紀末～9世紀初頭

RAO15 (第20図)

位置 2次調査区東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 南北5.34m, 東西5.99m, 深さ0.38~0.52m

カマド方向 N21°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.49m) カマド 両袖残存 (芯材に土器使用)

埋土 床面付近に炭化材・焼土・粘土塊 床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

柱穴 主柱穴4口, その他ビット1口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.24~0.3m	0.25~0.3m	0.24~0.3m	0.31~0.38m
深さ	0.42m	0.4m	0.45m	0.45m
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第43・46図, 第2・3表) 土師器坏 (非ロクロ)・高台付坏 (非ロクロ)・甕・球脚甕, あかやき土器坏 (ロクロ) 破片1点 (A層), 土製品 (紡錘車1点), 石製品 (砥石1点), 軽石

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO16 (第21図)

位置 2次調査区東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 南北4.02m, 東西4.26m, 深さ0.25~0.41m

カマド方向 N20°W, 北カマド, 長い煙道 (1.33m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり 貯蔵穴 北東部に1基 (pit1)

出土遺物 (第42図, 第1表) 土師器坏 (非ロクロ)・甕・球脚甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO17 (第22図)

位置 2次調査区北東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形? (調査区外)

規模 北西-南東2.15m以上, 北東-南西2.4m以上, 深さ0.19~0.24m

埋土 床面付近に炭化材 ビット 1口

出土遺物 土師器坏 (非ロクロ)・甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO18 (第23図)

位置 2次調査区北東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東5.32m, 北東-南西5.96m, 深さ0.29~0.44m

カマド方向 N36°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.26m)

カマド 両袖残存 貯蔵穴 カマド両袖脇に3基 (pit5・6・7)

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

柱穴 主柱穴4口, その他ピット1口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.25m	0.35~0.4m	0.3~0.35m	0.35m
深さ	0.7m	0.5m	0.6m	0.5m
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第43・46図, 第2・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球胴甕, 鉄製品 (釣針1点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA019 (第24図)

位置 2次調査区南東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東3.57m, 北東-南西3.54m, 深さ0.41~0.48m

カマド方向 N47°W, 北西カマド, 長い煙道 (トンネル状, 0.91m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり 柱穴 ピット6口

出土遺物 (第43図, 第2表) 土師器甕 時期 8世紀末~9世紀初頭

RA020 (第25図)

位置 3次調査区南東部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形? (調査区外)

規模 南北6.55m, 東西5.1m以上, 深さ0.25~0.3m カマド方向 N8°E, 北カマド, 長い煙道 (1.2m)

カマド 両袖残存 床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 厨溝, 仕切溝, 床構築土あり

柱穴 主柱穴2口, その他ピット10口

	pit1	pit2
直径	0.3m	0.3m
深さ	0.42m	0.35m
平面形	不整形	不整形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第44・46図, 第2・3表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕 (赤彩あり)・球胴甕・鉢, 須恵器坏破片1点 (A層), 土製品 (紡錘車1点・丸玉1点・ミニチュア土器5点), 石製品 (砥石1点), 鉄製品 (刀子1点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA021 (第26図)

位置 3次調査区東部 重複関係 RD016 (住居埋込途中から掘り込み) 平面形 隅丸方形

規模 南北4.0m, 東西4.1m, 深さ0.25m カマド方向 N8°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 0.91m)

カマド 両袖残存 埋土 北西部と北東部に砂礫による人為堆積あり

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 厨溝, 床構築土あり 貯蔵穴 南壁際に2基 (pit1・2)

出土遺物 (第43図, 第2表) 土師器坏〔非ロクロ〕・甕・球胴甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA022 (第27図)

位置 3次調査区南西部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形? (調査区外)

規模 南北3.0m以上, 東西4.95m, 深さ0.12~0.18m

カマド方向 N19°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.75m) **カマド** 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり **ピット** 2口

出土遺物 土師器環 [非ロクロ]・甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA023 (第28図)

位置 3次調査区中央部 **重複関係** RD009 (新) **平面形** 隅丸方形

規模 北東-南西3.0m, 北西-南東2.95m, 深さ0.15m

カマド方向 N27°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.35m) **カマド** 左袖一部残存 (人為的に破壊)

埋土 北東部に砂礫による人為地積あり **貯蔵穴** 西側に1基 (pit1)

出土遺物 (第44図, 第2表) 土師器環 [非ロクロ]・甕・球胴甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA024 (第29図)

位置 3次調査区中央北部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形

規模 北西-南東6.8m, 北東-南西7.1m, 深さ0.1~0.25m

カマド方向 N36°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.6m) **カマド** 左袖残存

貯蔵穴 南部に1基 (pit5) **床の状態** カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり

柱穴 主柱穴4口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.45m	0.4~0.45m	0.35~0.45m	0.5m
深さ	0.35m	0.4m	0.45m	0.4m
平面形	不整円形	不整円形	不整楕円形	不整円形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 土師器環 [非ロクロ]・甕・球胴甕, 土製品 (ミニチュア土器1点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA025 (第30図)

位置 3次調査区西部 **重複関係** RD011 (新) **平面形** 隅丸方形

規模 北西-南東3.1m, 北東-南西3.0m, 深さ0.1m

カマド方向 N43°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.15m) **カマド** 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり

出土遺物 土師器環 [非ロクロ]・甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO26 (第31図)

位置 3次調査区北西部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東6.95m, 北東-南西6.4~7.3m, 深さ0.25m

カマド方向 N33.5°W, 北西カマド, 長い煙道(1.0m) カマド 両袖残存(芯材に土器使用)

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 仕切溝, 床構築土あり 中央部に硬化面あり

貯蔵穴 南西部に1基(pit7)

柱穴 主柱穴4口

	pit1	pit2	pit3	pit4
直径	0.35~0.5m	0.3m	0.45~0.6m	0.35m
深さ	0.55m	0.55m	0.52m	0.5m
平面形	不整楕円形	不整形	不整楕円形	不整形
特徴	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第45図, 第2表) 土師器坏〔非ロクロ〕・高台付坏〔非ロクロ〕・壺, 土製品(ミニチュア土器2点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO27 (第32図)

位置 3次調査区西部 重複関係 RD012(新) 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東3.2m, 北東-南西3.55m, 深さ0.1m

カマド方向 N26.5°W, 北西カマド, 長い煙道?(先端覆乱で破壊, 0.5m以上) 床の状態 床構築土あり

出土遺物 土師器坏〔非ロクロ〕・壺・球網壺

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO28 (第33図)

位置 3次調査区南西部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東3.85m, 北東-南西4.3m, 深さ0.1~0.15m

カマド方向 N29°W, 北西カマド, 長い煙道(1.35m) カマド 両袖残存(芯材に硬使用)

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり

出土遺物 土師器坏〔非ロクロ〕・壺

時期 8世紀末~9世紀初頭

RAO29 (第34図)

位置 3次調査区南部・5次調査区北部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東4.35m, 北東-南西4.84m, 深さ0.2~0.25m

カマド方向 N37°W, 北西カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.10m) カマド 両袖残存

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 床構築土あり

出土遺物 (第45図, 第2表) 土師器坏〔非ロクロ〕・壺

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA030 (第35図)

位置 3次調査区南部・5次調査区北部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東6.40m, 北東-南西6.00m, 深さ0.3m

カマド方向 N28.5°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.60m) カマド 両袖残存 (芯材に土器使用)

埋土 床面北西部に炭化材

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 周溝, 仕切溝, 床構築土あり 中央部に硬化面あり

柱穴 主柱穴3口

	pit1	pit2	pit3
直径	0.35~0.4m	0.3~0.45m	0.25m
深さ	0.45m	0.35m	0.25m
平面形	不整楕円形	不整楕円形	不整円形
特徴	—	柱痕跡あり	柱痕跡あり

出土遺物 (第44図, 第2表) 土師器坏 [非ロクロ]・大型坏・高台付坏・甕, 土製品 (ミニチュア土器2点, 紡錘車1点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA031 (第36図)

位置 5次調査区西部 重複関係 なし 平面形 隅丸方形? (調査区外)

規模 南北7.30m, 東西3.50m以上 (調査区外), 深さ0.35m カマド方向 北カマド? (調査区外)

貯蔵穴 北壁際に1基 (pit7) 床の状態 床構築土あり

出土遺物 (第45図, 第2表) 土師器坏 [非ロクロ]・甕

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA032 (第37図)

位置 5次調査区南東部 重複関係 柱穴 (新) 平面形 不整隅丸方形

規模 東西3.10~3.20m, 南北3.20m, 深さ0.1m

カマド方向 E20.5°N (推定), 東カマド, 煙道なし (削平, または短い煙道) 埋土 床面に炭化材

貯蔵穴 カマド右袖脇に1基 (pit1) 床の状態 床構築土あり

出土遺物 (第45・46図, 第2・3表) 土師器坏 [非ロクロ]・甕・球胴甕, 須恵器壺破片, 土製品 (紡錘車1点) 時期 8世紀末~9世紀初頭

RA033 (第38図)

位置 5次調査区南東部 重複関係 柱穴 (新) 平面形 隅丸方形

規模 南北2.35m, 東西2.40m, 深さ0.15~0.20m

カマド方向 N14°W, 北カマド, 長い煙道 (トンネル状, 1.60m)

カマド 両袖残存 床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり

出土遺物 (第45図, 第2表) 土師器坏 [非ロクロ]・甕, 石製品 (砥石1点)

時期 8世紀末~9世紀初頭

RA034 (第39図)

位置 5次調査区中央部 **重複関係** なし **平面形** 隅丸方形 (床面のみ残存)

規模 北西-南東3.10~3.30m, 北東-南西2.5~3.1m

カマド方向 N36°W, 北西カマド, 長い煙道 (1.00m)

床の状態 カマド部分に焚き口の焼け面, 床構築土あり

出土遺物 土師器坏 (非ロクロ)・焼

時期 8世紀末~9世紀初頭

第3章 調査成果のまとめ

盛岡市教育委員会が実施した、平成16・18・21年度の高槽A遺跡第2次・3次・5次発掘調査により、第2章に記述した内容の成果を得ることができた。以下、主な遺構と遺物について、まとめを記述する。

1. 竪穴住居跡

3次にわたる本調査で精査した竪穴住居跡は計34棟である。これらは、後述するようにその出土土器の様相から、すべて8世紀末～9世紀初頭（奈良時代末～平安時代初頭）のものと考えられる。以下では、竪穴住居跡の規模やカマド方向の様相などに注目して、若干の検討を行う。

竪穴住居跡は、相互に重複することなくつくられ、その煙道がのびるカマド方向は、北カマド（N22.5°E～22.5°W, 13棟）と北西カマド（N22.5°W～67.5°W, 16棟）が大部分である。また、南西カマド、南東カマドが各1棟あるほか、在地に特徴的な長い煙道を持たない東カマドの竪穴住居跡が1棟ある。北～西カマドは、盛岡周辺の8世紀代の古代集落の特徴と共通している。

平面形はすべて隅丸方形であり、その辺長（カマド方向側）と床面積及び上屋を支える支柱穴の有無を検討すると（第4表）、概ね一辺5m以上・床面積25㎡以上のものが、ほとんどに支柱穴があり、この集落での大型住居と分類できそうである。住居の壁をつくるため板や杭を埋めた痕跡である周溝は、大型住居のほとんどにみられる。また、床をつくるための根木材の痕跡と考えられる切欠状溝は、一辺約6m以上・床面積36㎡以上のものに限られる。これら大型住居は、血縁集団の家父長クラスの住まいと考えられる。カマド方向のままとまりと住居規模の相関を検討すると（第4表）、N8.0°E～12.0°W北カマド(A)、N18.0°W～22.0°北カマド(B)、N26.5°W～36.0°W北西カマド(C)、N42.0°W～47.0°W北西カマド(D)、の4大グループに分類でき、南西カマド(E)と南東カマド(F)のものは小型であることから、それらのいずれかに付属していたと考えられる。これらの各グループには大型住居が含まれており、大型住居が中・小型住居とセットとなっていたことが想定できるが、平面分布的なままとまりは示さない。後述するように、土器群に時期差を見い出せないことから、これらは8世紀末～9世紀初頭の1時期の血縁集団を示すもの、と考えられる。また、一辺約4m以下・床面積約16㎡以下の小型住居に限られるが、住居埋没後または埋没途中で住居のほぼ中心に不整形の皿状土坑を掘り込み例が5棟ある。特徴的な遺物等が出土していないので、その意図や用途は不明であるが、何らかの作業場または祭祀跡であろうか。

2. 出土土器

ここでは、竪穴住居跡より出土した土器群について検討を行う。出土した土器は、土師器環〔非ロクロ〕・高台付環〔非ロクロ〕・甕・球胴甕・小型甕・鉢・甌であるが、このうち環〔非ロクロ〕・甕・球胴甕が基本セットとなっており、8世紀代の特徴を示している。時間変化を敏感に示す環の器形を見ると、有段で丸底のもの(a1類)、有段で平底風丸底のもの(a2類)、有段で平底のもの(a3類)、有段風沈線で丸底のもの(b1類)、段・沈線なく丸底のもの(c1類)、段・沈線なく平底風丸底のもの(c2類)がある。先のカマド方

向から抽出したグループごとに坯の組成をみると、各グループ間に大きな違いは見い出せない。型式学的には坯 a 類→b 類→c 類の時間変化が想定されようが、丸底、平底丸底、平底のものが共存しており、一時期内のバリエーションと捉えた方が無理がないと考えられる。このような坯のあり方だけをみれば、従来の編年観からすると 8 世紀末（第 4 四半期）に位置づけられるのかもしれない。しかし近年、盛岡市南西部の大規模区画整理事業（盛岡市新都市開発整備事業、通称「盛岡開発（愛称：ゆいびあ盛南）」に伴う広範囲な古代集落の発掘調査成果から、いわゆる「宮」である城壕「志波城跡」出土土器群の様相（ロクロ土器・須恵器・あかやき土器の保有開始）のみを 9 世紀第 1 四半期と位置付ける編年観に疑問がなされている（今野 2009・福島 2009・西野 2008・津嶋 2004）。本遺跡では、住居垣土層より数点ではあるが、ロクロを使用したあかやき土器・須恵器・破片が出土し、9 世紀代に主流となる南～東カマドの竪穴住居跡が小型ではあるが 2 棟存在する。これらを志波城設置に伴う「宮」からの影響と積極的に評価するならば、本遺跡の土器群について 9 世紀初頭（第 1 四半期）までの時間幅を想定してもよいのではないだろうか。

3. 土製品

勾玉・丸玉 石製のものを模倣した装飾品と考えられる。勾玉は RA008 住居跡のみから 4 点、丸玉は RA008 住居跡から 5 点、RA020 住居跡から 1 点、RD017 土坑及び擾乱内から各 1 点の計 8 点出土している。

紡錘車 棒を通し糸を紡ぐ道具であり、計 17 点が出土している。RA008 住居跡からは 4 点、RA010 住居跡からは 3 点と、まとめて出土する住居がみられる。また RX002 形周溝からも 1 点出土している。

ミニチュア土器 用途不明ではあるが、碗形の小型手づくね土器が合計 14 点出土している。RA020 住居跡から 5 点まとめて出土しているほか、1 または 2 点出土した住居跡が数棟みられる。

フイコ羽口 製鉄や小鍛冶に使用するもので、RA026 住居跡の床面ビット中より破片 1 点が出土。

4. 鉄製品

鉄鏃 RA008 住居跡から 1 点出土している。形状は、先端の箭頭部^{やぶこ}が幅広で大きく、城壕である志波城跡で多く出土する箭頭部が小さいタイプ（盛岡市教委 1982）とは異なっている。

釣針 RA018 住居跡から 1 点出土している。形状は「し」字形で、基部に釣糸を巻き付けたと考えられる痕跡が確認できる。

5. 刻書土器

RA005 住居跡出土の土器器坯底部（丸底）に、「キ」字状の刻書が見られ、焼成前に記号として記されたものと考えられる。

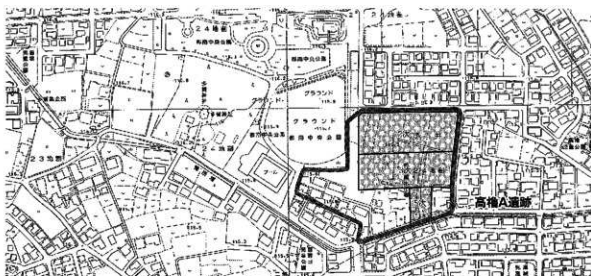
引用文献

- 今野公顕 2009 「9 世紀前半の志波城跡周辺の土器」『第 35 回古代城壕官衙遺跡検討会資料集』
- 津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』高志書院
- 西野 修 2008 「志波城・徳川城跡」日本の遺跡 31 同成社
- 福島正和 2009 「志波城周辺の集落様相」『第 35 回古代城壕官衙遺跡検討会資料集』
- 盛岡市教育委員会 1982 「志波城跡一昭和 56 年度発掘調査概報 - I」
- 盛岡市教育委員会 2009 「盛岡地区遺跡群発掘調査報告書 II - 盛岡市新都市開発整備事業関連遺跡平成 5 ～ 12 年度発掘調査② - I」

插图



第1図 遺跡位置図 (S=1:50,000)

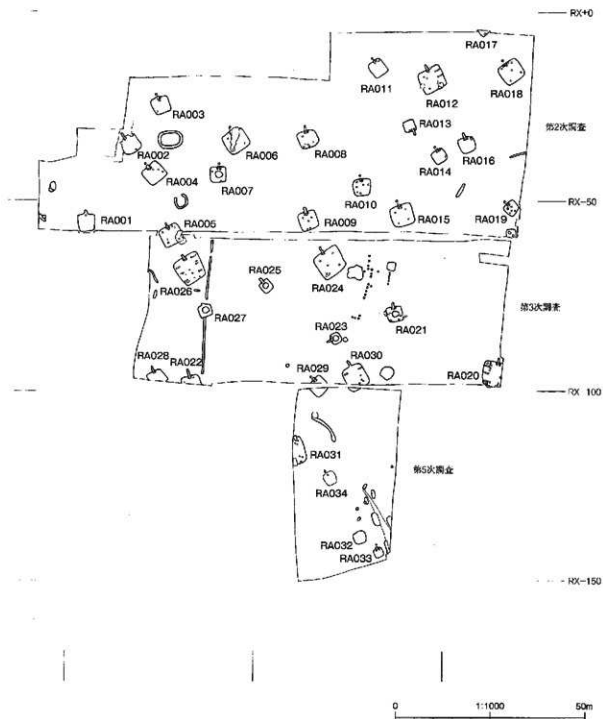


第2図 高橋A遺跡全体図 (S=1:2,000)

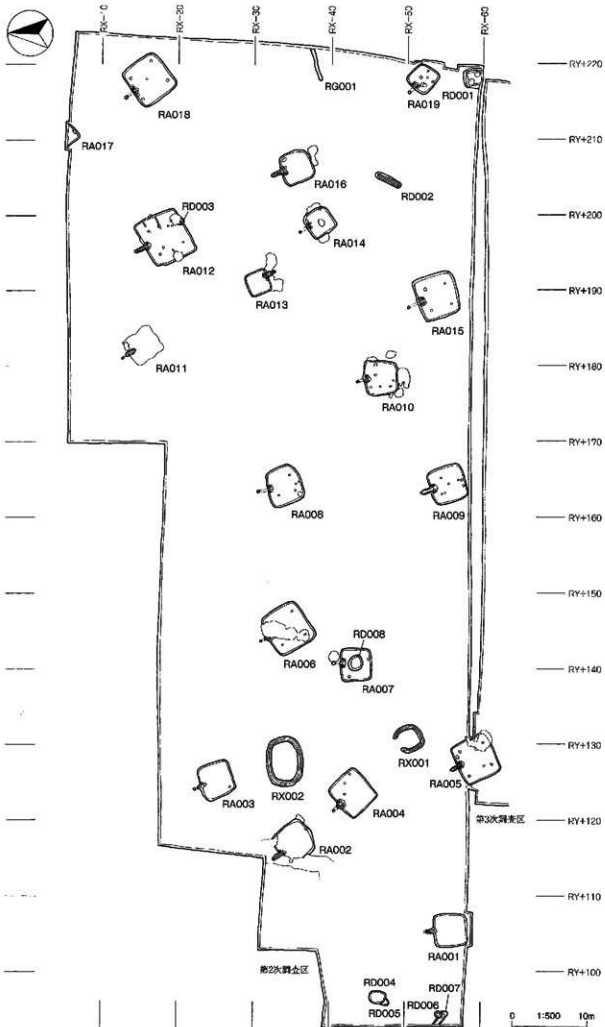
RV-100

RV+150

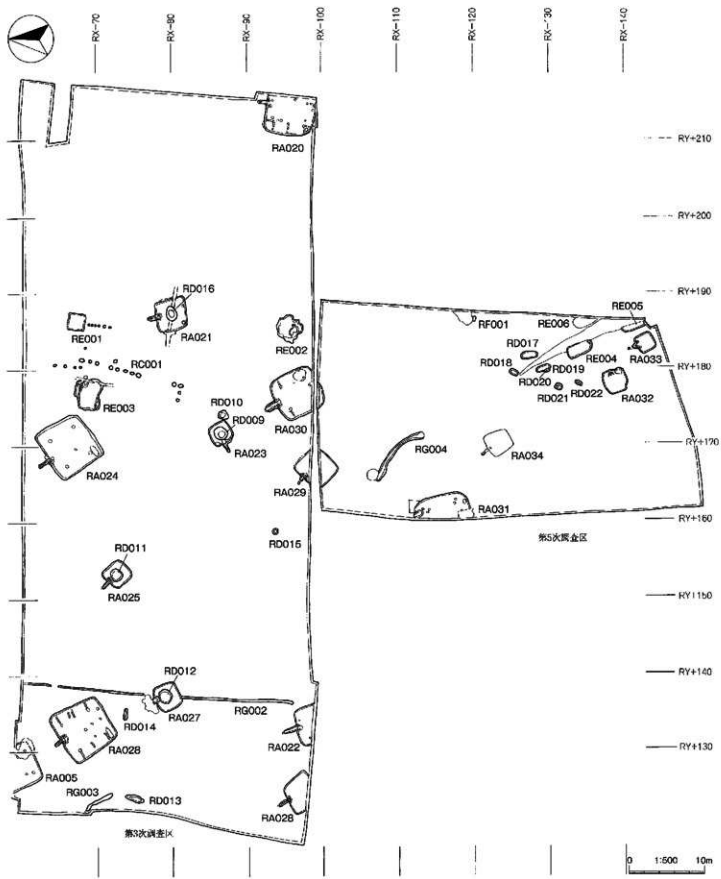
RV+200



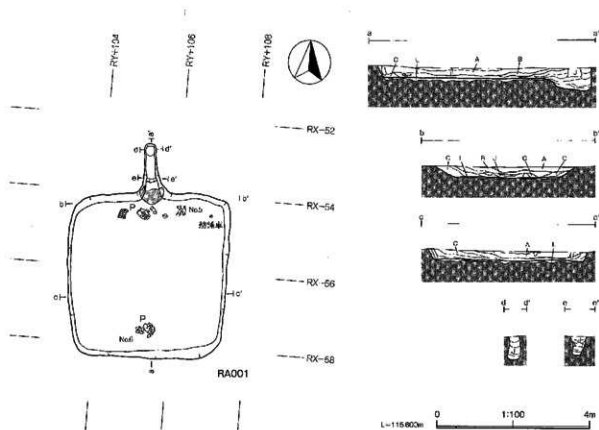
第3図 高橋A遺跡発掘調査全体図



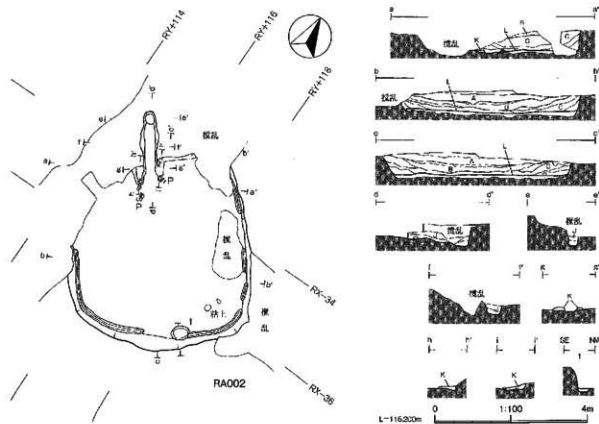
第4图 第2次調査区全体图



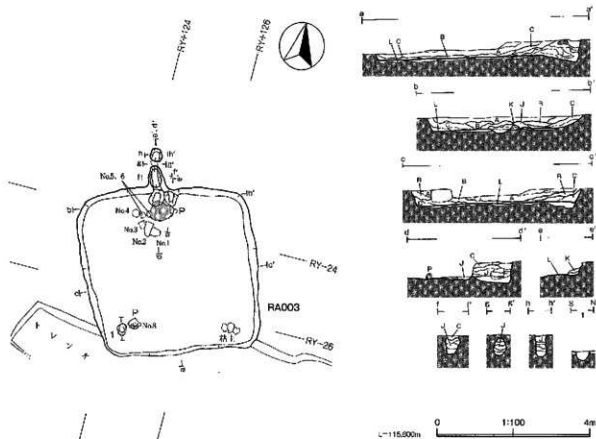
第5图 第3次・5次調査区全体图



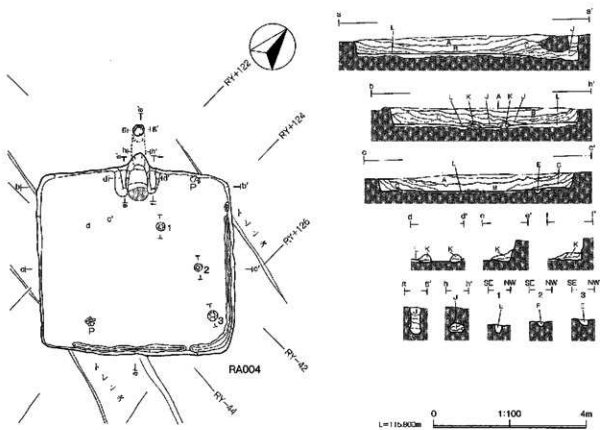
第6图 RA001 竖穴住居跡



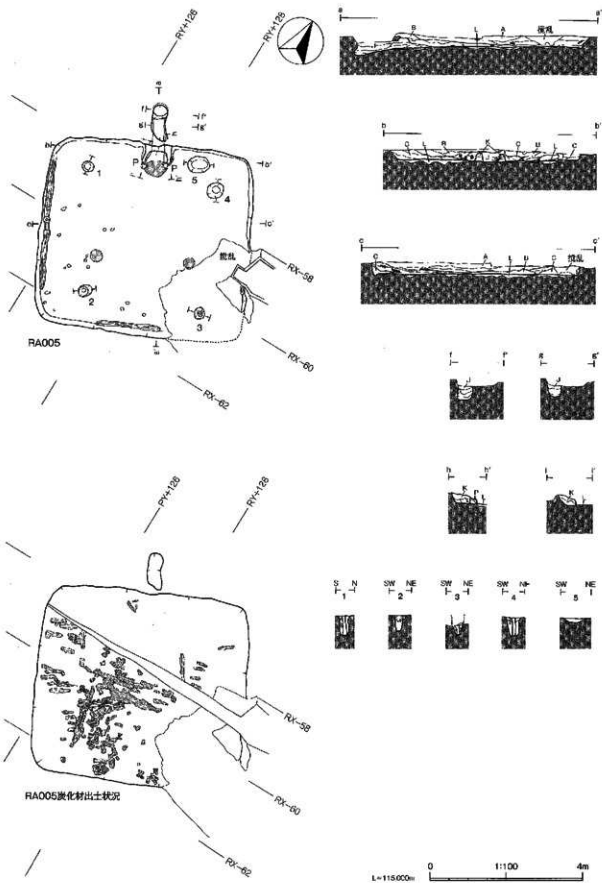
第7图 RA002 竖穴住居跡



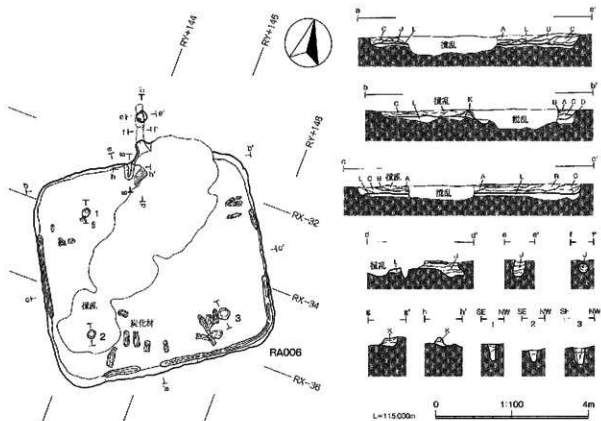
第8圖 RA003竪穴住居跡



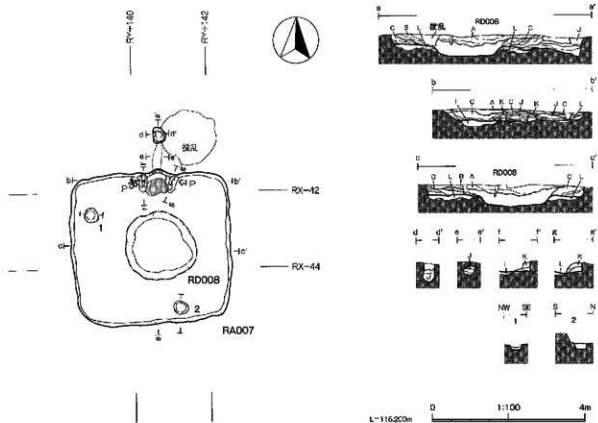
第9圖 RA004竪穴住居跡



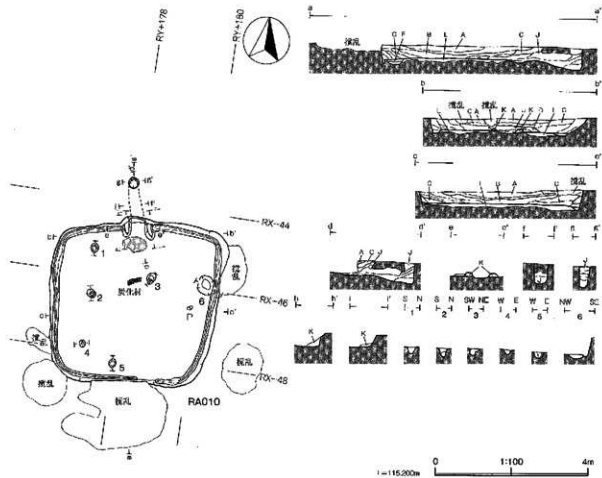
第10圖 RA005 竪穴住居跡



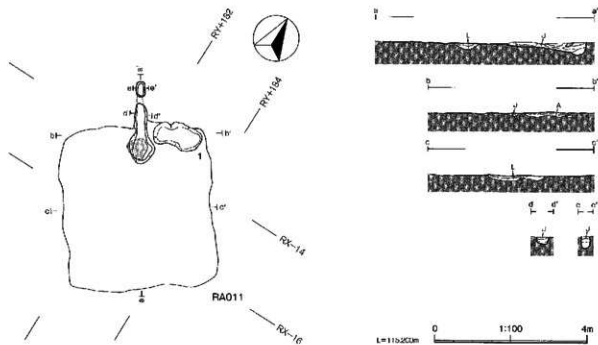
第11图 RA006 竖穴住居跡



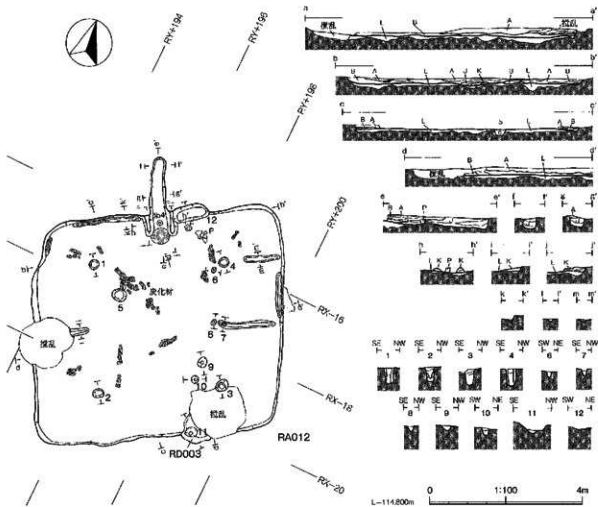
第12图 RA007 竖穴住居跡



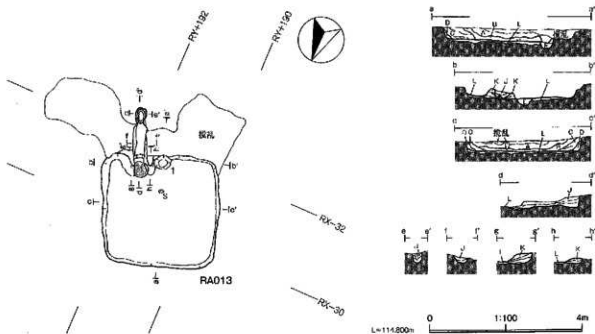
第15圖 RA010 竪穴住居跡



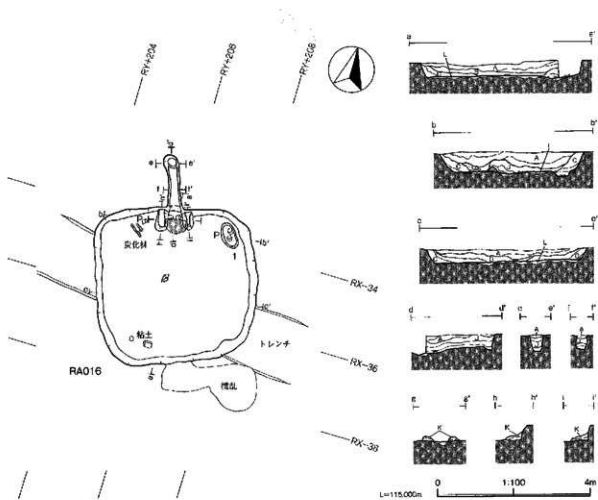
第16圖 RA011 竪穴住居跡



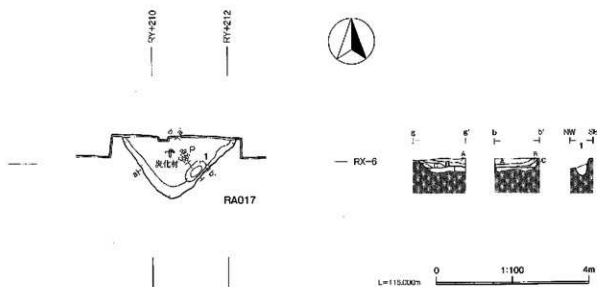
第17圖 RA012 竪穴住居跡



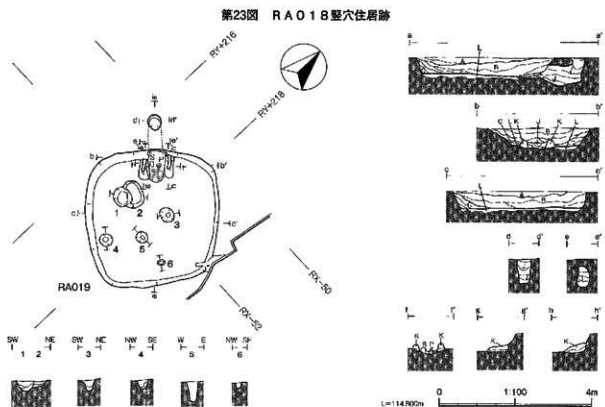
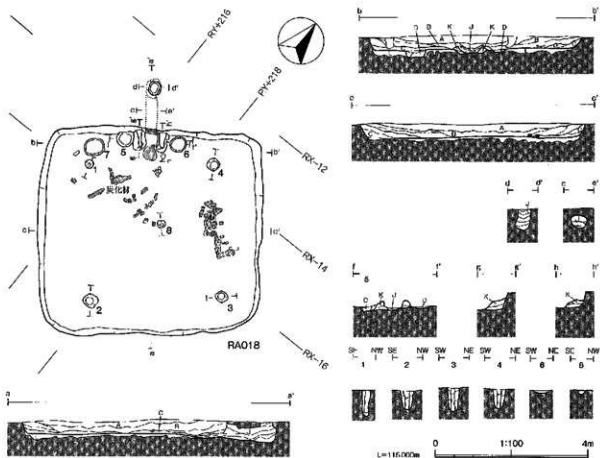
第18圖 RA013 竪穴住居跡

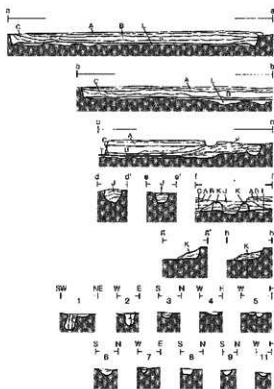
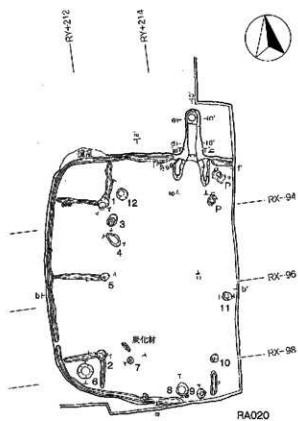


第21圖 RA016 竪穴住居跡

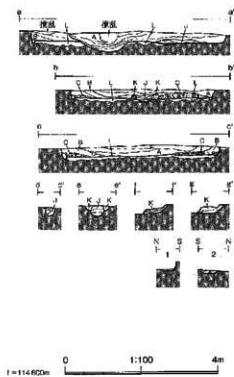
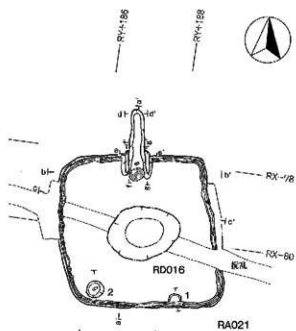


第22圖 RA017 竪穴住居跡

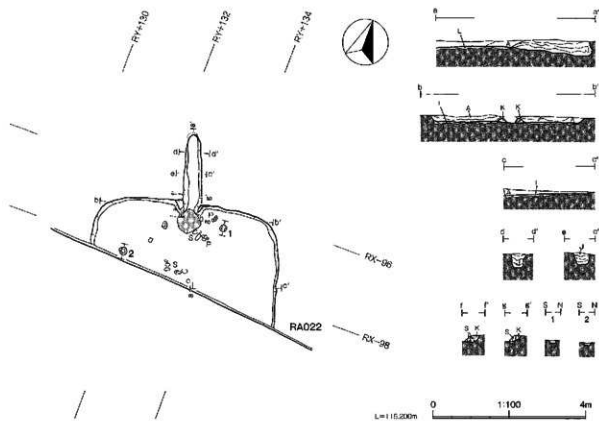




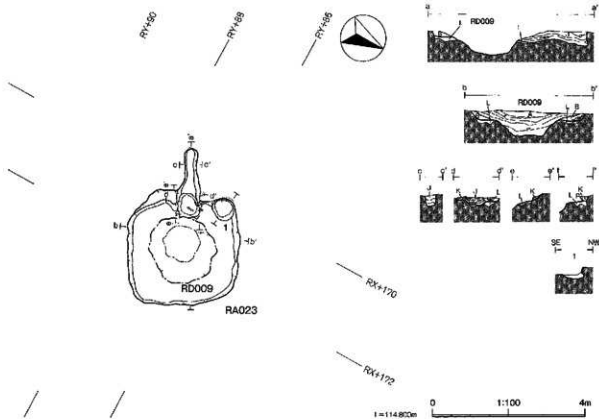
第25图 RA020 竖穴住居跡



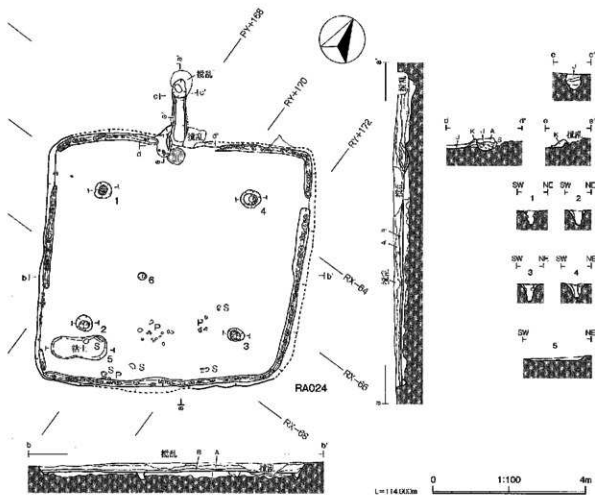
第26图 RA021 竖穴住居跡



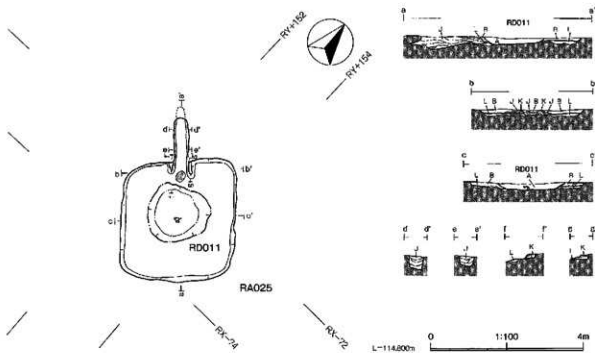
第27图 RA022 雙穴住居跡



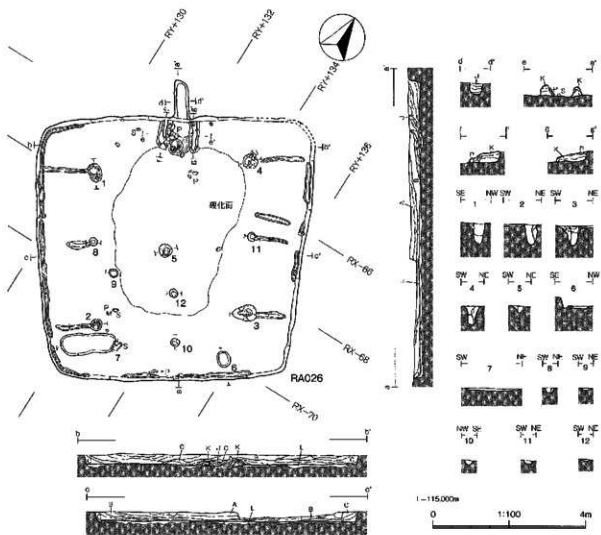
第28图 RA023 雙穴住居跡



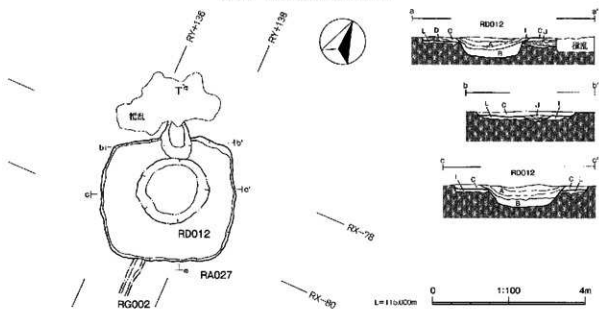
第29圖 RA024 雙穴住居跡



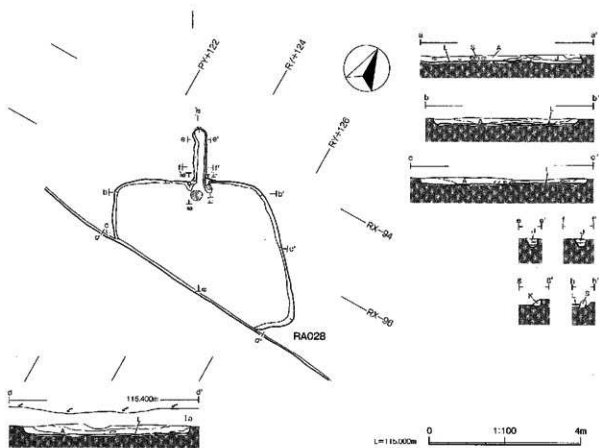
第30圖 RA025 雙穴住居跡



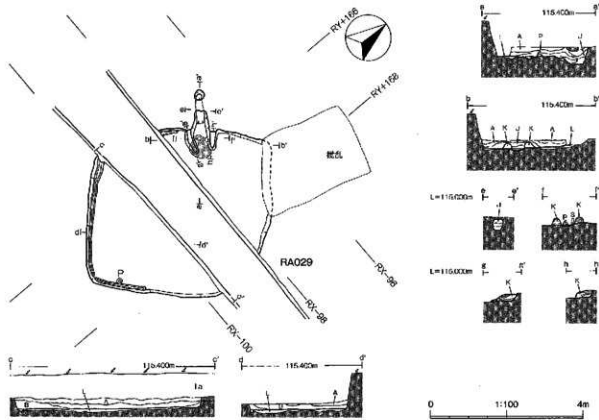
第31図 RA026 竪穴住居跡



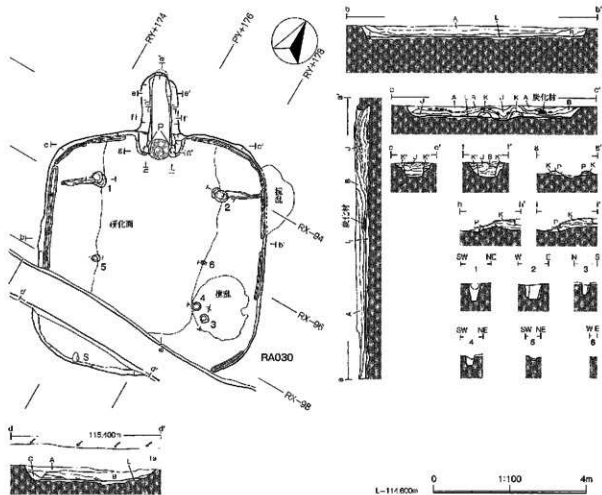
第32図 RA027 竪穴住居跡



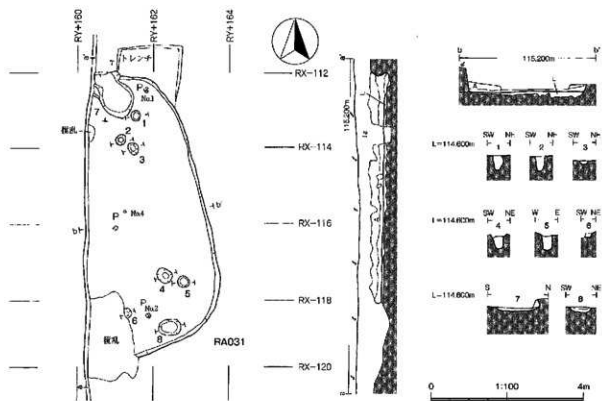
第33圖 RA028 竪穴住居跡



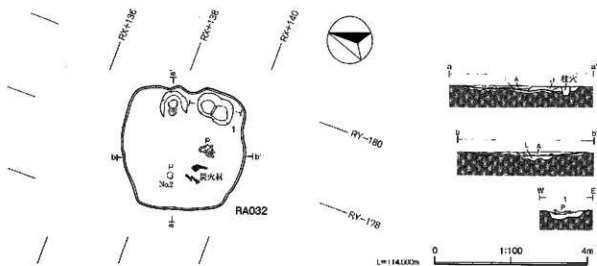
第34圖 RA029 竪穴住居跡



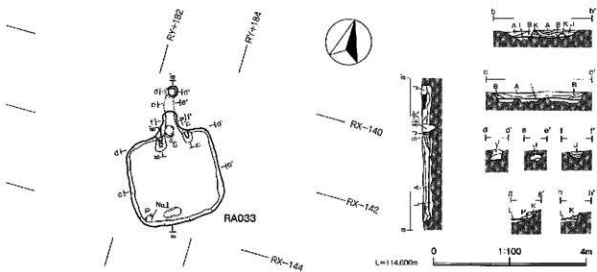
第35図 RA030 雙穴住居跡



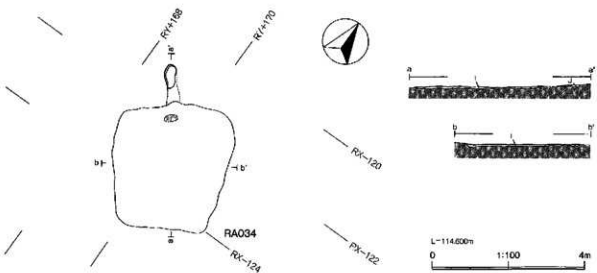
第36図 RA031 雙穴住居跡



第37图 RA032 竖穴住居跡



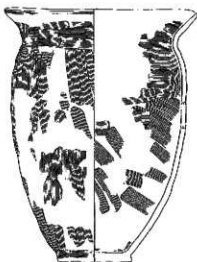
第38图 RA033 竖穴住居跡



第39图 RA034 竖穴住居跡



001 土師器片—RA001—床面No.6



002 土師器壺—RA001—床面No.1



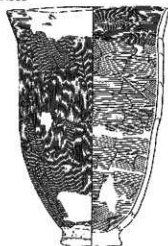
003 土師器片—RA003—NEE A層



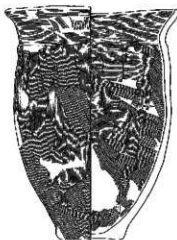
004 土師器片—RA003—床面No.5

RA001

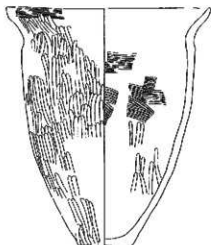
RA003



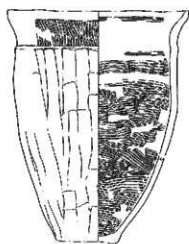
005 土師器壺—RA003—床面No.3



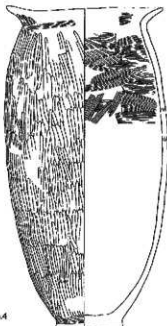
006 土師器壺—RA003—床面No.1



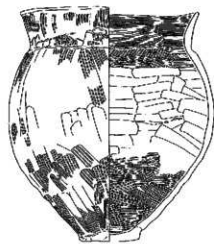
007 土師器壺—RA003—検出面



008 土師器壺—
RA003—床面No.4



009 土師器壺—RA003—床面No.2



010 土師器埴輪壺—RA003—床面No.8



006 土師器壺—
RA003—床面No.4

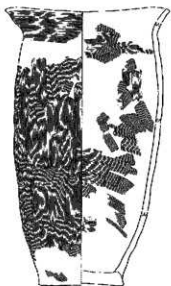
0 1-4 20cm

第40図 出土土器(1)

RA002



011 土師器杯—RA002—C層



012 土師器壺—RA002—NE区C層

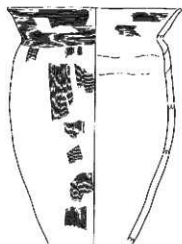
RA004



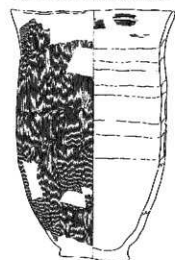
013 土師器杯—RA004—NE区B層



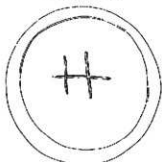
014 土師器壺—RA004—東園No.2



019 土師器壺—RA005—カマド右側No.5



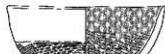
020 土師器壺—RA005—SW区B層



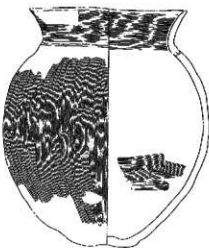
015 土師器杯—RA005—SW区B層—別背「牛」



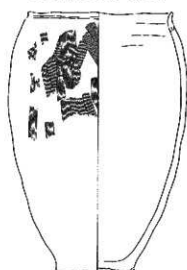
017 土師器杯—RA005—NWE区C層



016 土師器杯—RA005—東園No.1



018 土師器球形甕—RA005—カマド右側No.4



021 土師器壺—RA005—カマド右側No.6

RA005

0 1:4 20cm

第41図 出土土器(2)

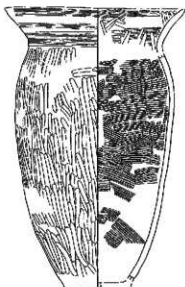
RA007



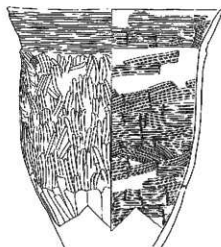
022 土師器片—RA007—NE区L層



023 土師器片—RA008—カマド東No.1



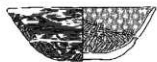
024 土師器片—RA008—床面No.8



025 土師器片—RA008—床面No.10

RA008

RA009



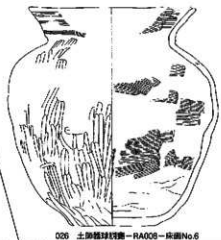
027 土師器片—RA009—床面No.8



028 土師器片—RA009—床面No.3



029 土師器高台付片—RA009—カマド右側No.3



026 土師器球状片—RA008—床面No.6

RA010



030 土師器片—RA010—床面No.1



034 土師器片—RA016—pit1 No.3

RA012



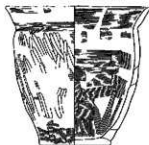
031 土師器片—RA012—B層



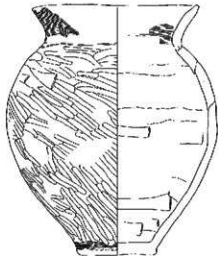
035 土師器片—RA016—A層



032 土師器片—RA012—カマド中央A層



036 土師器片—RA016—pit1 No.6



037 土師器球状片—RA016—pit1 No.5



033 土師器片—RA012—NW区埋土

RA016

0 1:4 20cm

第42図 出土土器(3)



038 土師器杯—RA015—片割No.3

039 土師器杯—RA015—片割No.4

040 土師器杯—RA015—NW区B層

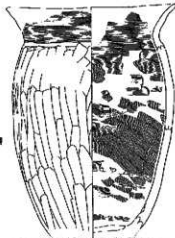
041 土師器杯—RA015—片割No.5



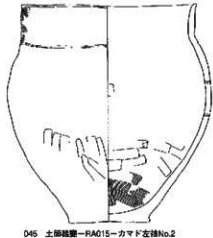
042 土師器杯—RA015—SE区C層



043 土師器高合付杯—RA015—SW区C層



044 土師器甕—RA015—カマド右柱No.1



045 土師器甕—RA015—カマド左柱No.2

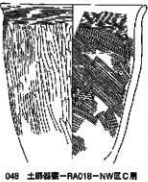
RA015



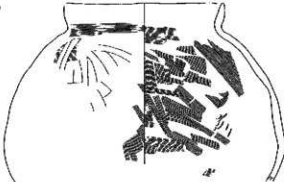
046 土師器杯—RA018—NE区A層



047 土師器杯—RA018—片割No.1

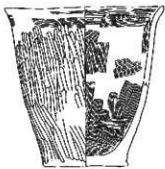


048 土師器甕—RA018—NW区C層



049 土師器杯新甕—RA018—SE区B層

RA018



050 土師器甕—RA019—片割No.2



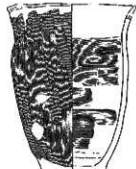
051 土師器杯—RA021—SE区A層



052 土師器杯—RA021—SW区A層



053 土師器杯—RA021—pr1底面



054 土師器甕—RA021—pit埋土

RA019

RA021



第43図 出土土器(4)

RA020



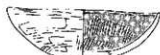
055 土師器片—RA020—NE区B層



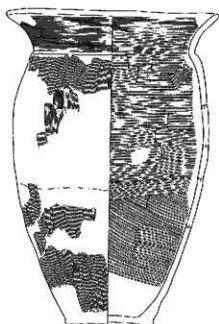
056 土師器片—RA020—床面No.6



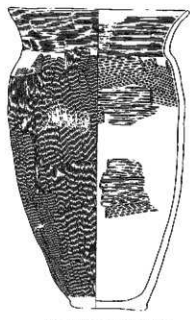
057 土師器片—RA020—床面No.7



058 土師器片—RA020—SW区C層

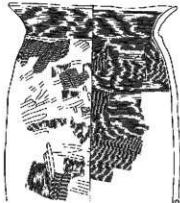


059 土師器甕—RA020—床面No.2・4

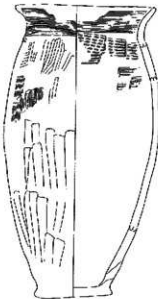


060 土師器甕—RA020—床面No.2

RA023



062 土師器甕—RA023—カマド竪口A層

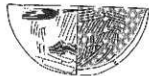


063 土師器甕—RA023—床面

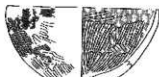


061 土師器球胴甕—RA020—C層

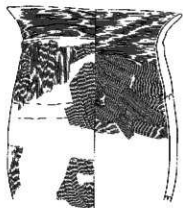
RA030



064 土師器片—RA030—NE区B層



065 土師器片—RA030—庭庭J層



066 土師器甕—RA030—カマド竪口



第44図 出土土器(5)

RA026



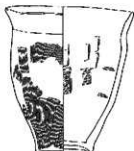
067 土師器杯—RA026—床面No.5



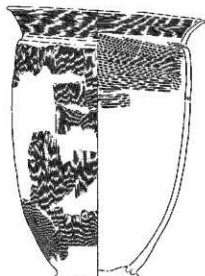
068 土師器杯—RA026—床面No.3



069 土師器壺—RA026—床面No.2



070 土師器壺—RA026—床面No.1



071 土師器壺—RA026—カマド支柱

RA029



072 土師器壺—RA029—床面No.3

RA031



073 土師器杯—RA031—床面No.1



074 土師器杯—RA031—床面No.2



075 土師器杯—RA031—床面No.4

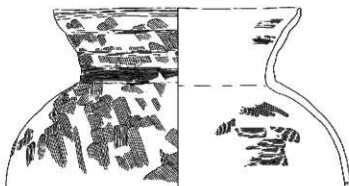
RA032



076 土師器杯—RA032—A層No.2



078 須恵器壺—RA032—A層



077 土師器球罎壺—RA032—pit1 No.1

RA033



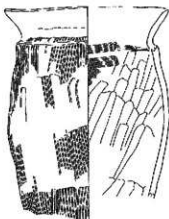
079 土師器杯—RA033—A層



080 土師器杯—RA033—A層



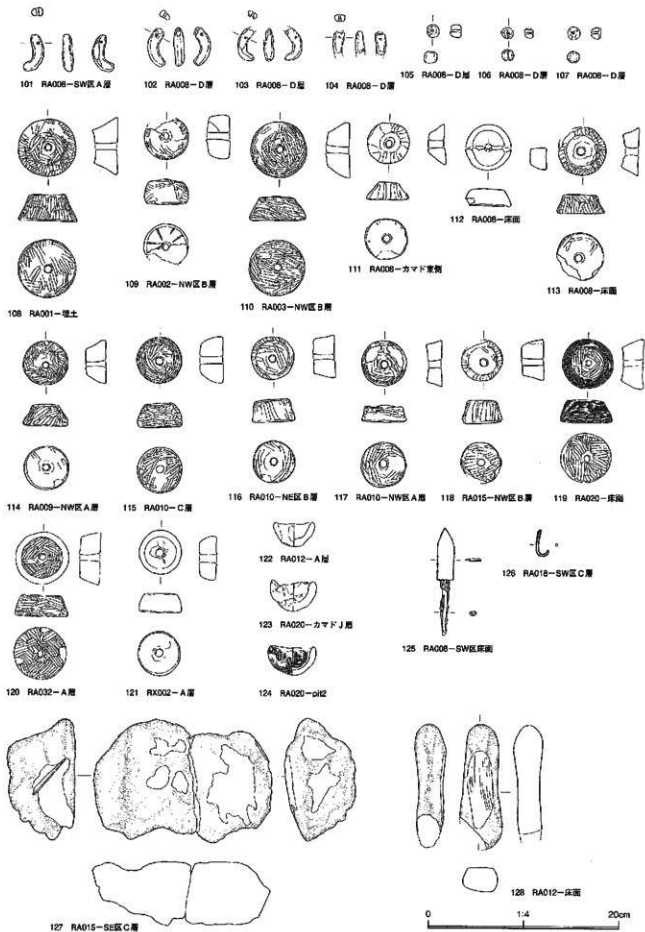
081 土師器杯—RA033—A層



082 土師器壺—RA033—床面No.1



第45図 出土土器(6)



第46図 出土土製品・石製品・鉄製品

表

年度	種別	品名	規格	数量	単価	金額	単位	納入	納入	納入	納入	納入	納入		納入	納入	納入	納入	
													納入	納入					
年度	種別	品名	規格	数量	単価	金額	単位	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入	納入
40	457	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	458	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	459	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	460	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	461	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	462	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	463	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	464	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	465	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	466	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	467	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	468	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度
40	469	7	高純度	10A	502	PA66	1	1.0000	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度	高純度

第2表 出土土務観察表(2)

写 真 图 版



第2次調査区全景（南から）



第3次調査区全景（南から）



第5次調査区全景（南から）

第1図版 発掘調査区全景



RA001 豎穴住居跡



RA003 豎穴住居跡



RA004 豎穴住居跡



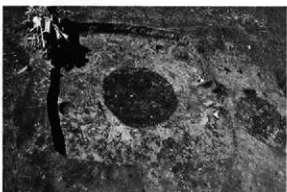
RA006 豎穴住居跡



RA005 豎穴住居跡北半



RA005 豎穴住居跡南半



RA007 豎穴住居跡



RA008 豎穴住居跡

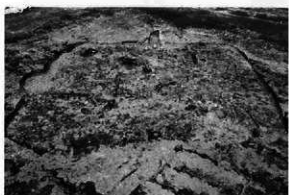
第2圖版 豎穴住居跡(1)



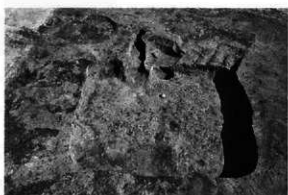
RA009 豎穴住居跡



RA010 豎穴住居跡



RA012 豎穴住居跡



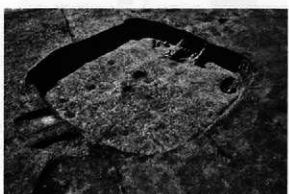
RA013 豎穴住居跡



RA014 豎穴住居跡



RA015 豎穴住居跡



RA016 豎穴住居跡



RA018 豎穴住居跡

第3圖版 豎穴住居跡(2)



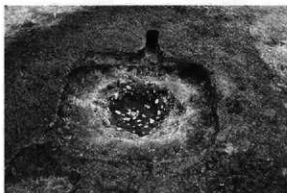
RA020 壁穴住居跡



RA021 壁穴住居跡



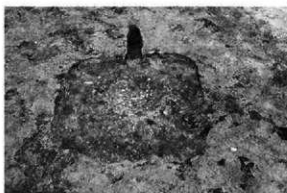
RA022 壁穴住居跡



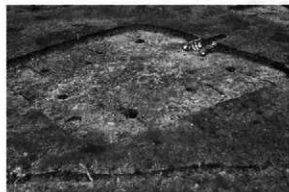
RA023 壁穴住居跡



RA024 壁穴住居跡



RA025 壁穴住居跡

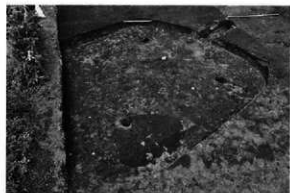


RA026 壁穴住居跡



RA029 壁穴住居跡

第4圖版 壁穴住居跡(3)



RA030 竪穴住居跡



RA031 竪穴住居跡



RA032 竪穴住居跡



RA033 竪穴住居跡

第5図版 竪穴住居跡(4)



RA003 雙穴住居跡出土土器



RA005 雙穴住居跡出土土器



RA015 雙穴住居跡出土土器



RA020 雙穴住居跡出土土器



RA026 雙穴住居跡出土土器

第6図版 出土遺物(1)



003 土師器环-RA003



011 土師器环-RA002



013 土師器环-RA004



015 土師器环-RA005



016 土師器环-RA005



017 土師器环-RA005



022 土師器环-RA007



027 土師器环-RA009



028 土師器环-RA009



029 土師器高台付环-RA009



030 土師器环-RA010



031 土師器环-RA012



032 土師器环-RA012



034 土師器环-RA016



035 土師器环-RA016



038 土師器环-RA015



039 土師器环-RA015



040 土師器环-RA015

第7图版 出土遺物(2)



041 土師器坏-RA015



042 土師器坏-RA015



043 土師器坏-RA015



044 土師器坏-RA018



051 土師器坏-RA021



052 土師器坏-RA021



053 土師器坏-RA021



056 土師器坏-RA020



057 土師器坏-RA020



058 土師器坏-RA020



065 土師器坏-RA030



067 土師器坏-RA026



073 土師器坏-RA031



074 土師器坏-RA031



076 土師器坏-RA032



079 土師器坏-RA033



080 土師器坏-RA033



081 土師器坏-RA033

第8図版 出土遺物(3)



001 土師器甕-RA001



002 土師器甕-RA001



004 土師器甕-RA003



005 土師器甕-RA003



006 土師器甕-RA003



010 土師器球胴甕-RA003



012 土師器甕-RA002



014 土師器甕-RA004



018 土師器球胴甕-RA005



020 土師器甕-RA005



023 土師器甕-RA008



024 土師器甕-RA008



044 土師器甕-RA015



045 土師器球胴甕-RA015



050 土師器甕-RA019



054 土師器甕-RA021

第9図版 出土遺物(4)



059 土師器甕 - RA020



060 土師器甕 - RA020



063 土師器甕 - RA023



069 土師器甕 - RA026



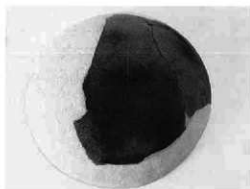
070 土師器甕 - RA026



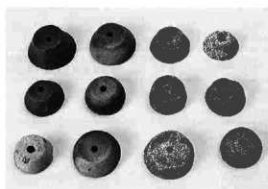
071 土師器甕 - RA026



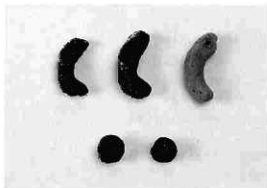
072 土師器甕 - RA029



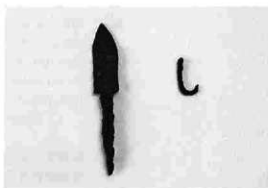
刻書土器「キ」(015-RA005)



土製品 (紡錘車)



土製品 (勾玉・丸玉)



鉄製品 (鉄鏃・釣針)

報告書抄録

ふりがな	たかやぐらエーいせき									
書名	高榎A遺跡―「パークスクエア都南中央」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書―									
編者名	佐々木亮二・津崎知弘									
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（発行：宮城開発株式会社・盛岡市教育委員会）									
所在地	〒020 0866 岩手県盛岡市本宮字荒塚13番地 電話 019-635-6600									
発行年月日	2009年11月30日									
ふりがな	ふりがな	ロード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査理由			
所収遺跡名	所在地	市町村	電話番号	(世界測地系)		(㎡)				
たかやぐらエー 高榎A遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 ながい 水井24地割	03201		39°	141°	2次	2次 2004.7.5 ～2004.10.7	2次 5,530	宅地造成	
				39°	09°	2006.8.1				3次
				01°	27°	～2006.8.11	5次	5次 1,400		宅地造成
						2009.6.29 ～2009.7.15	計			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項			
高榎A遺跡	集落	古代(奈良・平安)	壁穴住居跡 34棟	土師器(茶・灰・瓶ほか)	土製品(勾玉・丸玉・紡錘車) 石製品(乱石) 鉄製品(鉄釵・釣針)					
2・3・5次調査		古代以降	円形竪溝 2基	石製品(乱石)						
			壁穴状遺構 6基	鉄製品(鉄釵・釣針)						
			上坑 22基							
		近世以降	溝跡 4条							
			焼土遺構 1基							
			竪立柱列跡	瓦磁器						
要約	高榎A遺跡は、朝廷により規制「志保城」が設置された直後の、8世紀後半～9世紀初頭の壁穴住居による集落であり、当地に伴う支配が及ぶ前後の概況（エミシ）集落の様子を示す貴重な資料が得られた。									

高 榎 A 遺 跡

―「パークスクエア都南中央」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書―

平成21年11月30日

編集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒塚13-1
電話 019-635-6600 ファクス 019-635-6605
E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/14kyoiku/iseki/manabikan/index.html>

発行 宮城開発株式会社・盛岡市中央通1丁目13-55
盛岡市教育委員会・盛岡市津志田14-37-2

印刷 株式会社社隆印刷・盛岡市みたけ2丁目22-50